

假字本末

下卷

			八	和
			六	書
		九	二	門
四	六	三	三	
册	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
三			八	和
七			六	書
函			二	
一	四		三	
九	册	號	類	
架				

內閣文庫		
番號	和	8623
冊數	4	(3)
函號	207	408



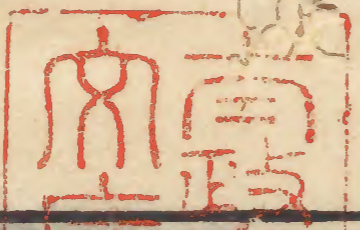
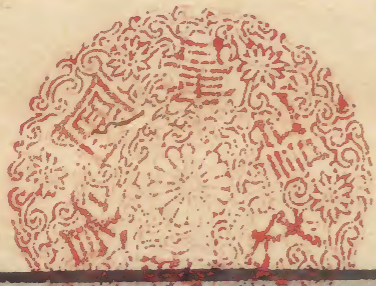
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





假字本末下卷

片假字の出来たる始

藤原長親卿僧名明魏孫倭片

伴信友稿

假字本末下卷
耳長者親入道明魏匪直也人者也于時正德三年癸巳歲孟
憂蓋唯遠世貞觀年直也人者也于時正德三年癸巳歲孟
首蓋唯遠世貞觀年直也人者也于時正德三年癸巳歲孟
大納言新賢卿孫推中納言家賢卿子名長親詠歌有數
大納言新賢卿孫推中納言家賢卿子名長親詠歌有數
州花頂山焉續作部類歌口傳則應永年中出家住山
散人明一冊於難波速川氏許借之命筆深紙彼花山
巴元少庚申歲夷則下弦阿闍梨正一本何世何人而
功不矣鳴呼惜哉未知耕雲散人明魏為何世何人而
推實之正軌然音義輕重濁庵情見開秘密之與藏示
搜求舊庫反故中而手錄以歸庵情見開秘密之與藏示
假字及切義解序小此書の尾子仲春日花山耕雲散人

假字本末下卷

Handwritten notes in vertical columns on the right page.

るを疎 到於天平勝寶年中。右丞相吉備真備公。取所通
用。于我邦假字四十五字。省偏旁。點畫。作片假字。抑四十
字。阿行を除。音響。反阿伊宇江乎五字。下又豎列五字。と
此乃天地自然之倭語焉。是故豎列五字。を阿伊宇江乎。横
列十字。の一字おと。横よ。加入同音五字。合せ。五
音を加入せり。と。同為五十字。を重加。て五十字
と。反切の用を。且又横十字。隨唇舌牙齒喉。備宮商
角徵羽變宮變徵七聲。奇哉。世俗傳稱之。云吉備大臣。倭
片假字反切。五十音。有。其口決矣。然後弘仁天長年中。釋
空海造四十七字伊呂波。補圖於二字。以便于女童。其體

則草書。此伊勢物語。古今和歌集。所用女假字四十七字
也。予學和歌。樂音律。其餘力。觀吉備大臣。倭片假字反切。
則闕無音義。竊注已意。且音義。と。五十音。此義。り。上よ
る。趣の義の闕。て。注。さ。ぐ。を。今。已。が。意。を。も。て。新
よ。加。へ。り。と。形。り。そ。を。本。文。に。假。字。反。切。音。義。を。と。假
字。音。義。方。位。を。て。舉。げ。ら。る。論。を。其。亦。考。全。書。以。解。片。假。字。
説。を。あ。ら。よ。要。を。あ。け。は。論。を。其。亦。考。全。書。以。解。片。假。字。
全。書。と。ハ。五。十。音。圖。書。を。考。へ。る。片。假。字。の。本。字。を。云。ふ。る
よ。り。其。全。き。本。字。を。考。へ。る。片。假。字。の。本。字。を。云。ふ。る
由。り。其。全。き。本。字。を。考。へ。る。片。假。字。の。本。字。を。云。ふ。る
假。字。畫。解。と。あ。る。お。お。名。曰。倭。片。假。字。反。切。義。解。聊
述。由。緒。冠。假。字。首。云。爾。と。云。ふ。か。く。て。以。を。ゆ。る。吉。備
大臣。倭片假字反切口決を載了云
上父字。行。豎。下母字。行。横。其。隅。生。子。字。

○假字本末下卷

三

も所るがうへよ。あつゝを要とあらねむ捨て寫さば。さう上ふも云へるおとく此ほらふ。假字反切音義。假字音義方位。まこと追考伊呂波字畫解と記せるを。明魏孫意をもて注せる説も。甚し。た誤あまむすべし。とらび。本書を。見て知る。修し。

今按る。吉備真備公をたあゆる多才の儒者み。續日本紀孫公の薨らまし所よ。靈龜三年三月十二日。二年二月十二日。從使入唐。留學受業。研覽經史。該涉衆藝。我朝學生播名。唐國者。唯大臣及朝衡二人而已。天平七通本五年。歸朝。授正六位下。拜大學助。高野天皇師之。受禮記及漢書。恩寵甚渥。賜姓吉備朝臣。と見え。本朝文粹に載せる三善清行朝臣孫異見封事十二條の中に。

至天平之代。右大臣吉備朝臣恢弘道藝。親自傳授。即令學生四百人。習五經三史。明法算術音韻籀篆等六道。と見え。それ。音韻道ふも長き。ひきり。り。そのかみ唐國。天竺より傳を。つる悉曇法を受習。來。それ。倣ひ。皇國の正。た音聲。轉し。音位を換へて。新ふ五十音圖を作り。さ。其對譯。用ふ。法。漢字音の區。して。一同。から。る。が故。更。當。時皇國通用。字音。ま。訓。をも。假借。りて。姑。對譯の。き。先。四十五字を定め。其字。孫。偏旁點畫を省。き。あ。て。簡約ある一體の字を製り。る。を。以。を。片。

假字後は空海二字を補て四十七字と形する事
反切義解序見えく上は舉ぐるがごとし
論下ふしもかく設置く學生に便よく音韻反切を習
は先又漢籍の訓ざぬどもをもか川く字旁に注
置取ぜもく教授めへるものをそある法き遊仙
古訓本文保三年文章生英房の與書。嵯峨天皇書卷
之中撰得遊仙窟。召紀傳儒者欲傳受也。諸家皆無傳學
士伊時深愁歎云々。有老翁閉眼常誦之。問讀遊仙窟
云々伊時聞及云々。泰詣翁所云々。為得遊仙窟。所泰也
云々翁曰我幼少自答受此書云々。重申願教此書云々
翁諳誦之。伊時付假名讀一帙畢といへる事。見えくり。
此本片假字もて古き讀法を依けきり。古人漢籍の訓
字づけハ音ノ如シ。さテ悉曇の事ハ唐僧智廣が悉曇字
音注反切の音。如し。さて悉曇の事ハ唐僧智廣が悉曇字
記悉曇天竺文字也。西域記。詳其文字梵天所製。原
始垂則四十七言。遇物。合成。隨事。轉用。とみえくるおれ

悉曇原始。然る。小明の世。始陶宗儀。著せる。
書史。會要。元世。祖創。為國。字母。四十。三云。々と。其
帝師。巴思。八采。梵文。創為。國字。母四。十三。云々。と其
字母。をも。載き。りあ。れい。たあ。る蒙。古字。母四。十三。云々。と其
行へ。る事。を元。史に。至元。五年。の事。と似。きり。朝の。文永。六
年あり。れの。元史。に至。元五。年の。事と。似き。り朝。の文。永六
也巴思八采梵文創為國字母四十三云々。其
るを。世祖。是を。尊て。帝師。と稱。馬巴。思八。おの。れが。國
風の。悉曇。法に。より。て字。母を。作ら。むと。はる。はる。素より
蒙古。音の。異なり。りり。又其。音母。を作。らむ。とは。るは。る素。より
を減。して。四十。三音。をも。て字。母を。定め。きる。もの。然る。也
形る。法し。あき。皇國。の片。假字。と似。きる。事なり。然る。也
を續。日本。紀寶龜九年十月。小玄蕃。頭從五位上。袁晋卿。賜
姓淨村宿祢。晋卿。唐人。也。天平七年隨我朝使歸朝。時年
十八九。學得。文選爾雅等音。為大學音博士。於後歷大學
頭云々。と見。えく。る天平七年。八。真備公。歸朝。於年。當

其表晋卿が事を。空海が性靈集為藤真川攀淨豊。遥慕聖風。遠辞本族。誦兩京之音韻。改三吳之訛響。口吐唐言。發揮嬰學之耳目。と云有り。音韻は精一か多し人。故推案ふる。真備公の計らひ。晋卿を歸化とら。免もたら學び。死して。音圖をも作。定免給。するもの。知る。義解。序。天平勝寶年中に作り。多へりとい。貞安頃もよく合ひ。きあゆる。古。史書どもを按ふる。古ハ音韻。學と。ある事。知。音博士とて字音を教る者。唐國人を任用。是。つとき。此晋卿をもす。音博士に任さ

終りけ。此後唐國人を任。事。を。さ。た。え。ぬ。を。真備公。片假字を製り。反切の法を定。め。る。始りて。漸ハ漢籍讀む。との。容易く。知る。が。故。知る。か。く。其音圖。據りて。今皇國言の。奇。く。妙。ある。趣。を。解。き。明。ら。む。る。う。へ。ま。と。り。て。を。か。す。ま。て。漢字よむ。料も。立。あ。さ。り。て。い。み。ど。世。に。き。ら。ら。と。知。る。を。あ。や。し。た。ま。ご。よ。ひ。さ。を。く。免。ご。と。知。思。ふ。孫。よ。こ。そ。ハ。何。り。を。ま。上。に。引。き。る。お。ど。く。續。紀。よ。野。天。皇。師。之。受。禮。記。及。漢。書。恩。寵。甚。渥。賜。姓。吉。備。朝。臣。と。見。え。る。を。按。ふ。も。その。の。み。女。帝。に。あ。ち。ぎ。漢。籍。を。讀。せ。奉。り。と。る。も。は。た。免。て。此。片。假。字。を。用。ひ。て。漢。教。授。奉。り。の。る。を。免。げ。ら。し。く。便。よ。く。お。も。ほ。し。き。る。

○假字本末下卷

○七

あつてもありき。恩寵の殊に深う里しよもやありけむ。後世に草假字を女假字女手假字とも稱ひて。もたらざるものもあつて。ごくとくわゆる。然るもその真備公の五音音圖中。本音を四十五字ありけるを。空海圍於此二音を増補し。本音四十七字と為まりといふる傳ハ。まことに然る事なるべし。其を空海入唐して。始て真言秘密法を受。梵字學をも傳たりせりと云へ。悉曇法を精しく明ら免曉りて。舊圖を改訂して。於圍の二音をも増補せるものにして。此空海の功も更ふあつて。免でせり。但し衣惠の音の差別を素より音圖にあり。十五字増補圍於二字と云ふるをせがへり。音圖を正して後。伊呂波を作れりと云ふ。後きおとわたり。

但し件の音圖。横行ア。ワ。ヤ。ナ。タ。ラ。ハ。マ。カ。サ。と次第きるを。當時あほ精しからざりしなり。又空海の改補。ア。ワ。行のヲをオとし。ヤ。行。イ。を井とせるハ。舊より空海の然改するより。又空海は改補の説も。おみとて。明魏は私よものせられしに。いづれも。精しからば。その由ハ下。さて。又真備公の時。世より。はやく古事記。日本紀等。以圍於遠。お言。れ。差別正しく。字音をも正しく用ひ別せしめる事。著明く。少も混。り。きを。件の公は音圖。お。お。井。オ。を載ら。お。ざるを。い。り。ぬる事より。と考ふる。お。公の世より。以前。のむり。ハ。

○假字本末下卷

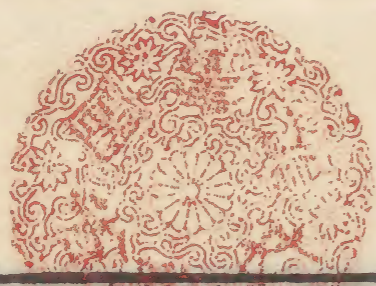
ハ

漢字をよむよた。一字おとふその音を正し明ら免て。讀習ひ来れるものよして。悉曇法に據りてさざりる事のあらざりしから。何れ混迷も無ありつるを。かの悉曇法よりて音圖を製するへあうひくしたる所をせて。かへりて井才に差別は惑ひありて。姑く闕きを有る形を治し。後の世と知りて。此道は習熟する上を意もて。深く難む治きよあらば。比等治きよた。世は巴思ハダ。創く梵文を採て。蒙古の字母四。然るに十三を爲れるも。おのづから似ざる趣あり。空海井才に二音を補ひきるよよりて。音を備りたをど。猶横行の次第ハよくもどくのはざりつるを。又後

る考正せる人々形出来て。今の如くよを定まりしもの形を治し。高野寺の僧に著して刊本よせる野の講坊は在て秘藏す。大師真筆の片假字ハ。當山の形をよる。いりぞ其寫を得て。あまの音圖を書せるもの。かくて。かの國人が。其を待遠るや。さて音圖の阿れど。いま。詳ならぬぞ待遠るや。さて音圖の阿行よ。於を属する。又豎行の音に位置。又横行に次第。どの。中昔に書よ見えど。今と差するを。予が見ありきるを舉げ。あ。阿行よ。於を属するハ。源順朝臣集よ。あ。い。う。え。を。一音づ。初と終の句に上よおきよよ。あ。る。歌五首あり。あ。天文丙午寫本の和名抄よ。一本卷首云と。と。五十音を書入するよ。阿伊烏衣於。ま

○假字本末下卷

今園を加へて寫せり。此書今より百五十年ばより
形こは撰著せり書りしとぞ。件の音圖を、それより
以ての頃傳はりきりしより、あられぬと、彼國人は皇國
よ、泰渡り始りし、いとしも遠からぬと、古の傳
に、の海を渡り、次第より、かの國の音の位置を、開口より撮り
おもむく、次第より、か國の音の位置を、開口より撮り
近くきこ、彼國の聞悟、既に此の音の事を論ずるは、説
らひ、又、越後國、伊夜比子、神、社、司、家、の、文、明、九、年、
る、寫、せ、る、神、代、文、字、の、語、文、の、本、字、吏、道、と、
く、其、音、の、位、置、を、朝、鮮、の、語、文、の、本、字、吏、道、と、
ル、又、ク、エ、ム、ウ、と、セ、リ、あ、ま、も、と、よ、り、彼、國、の、
る、は、し、其、吏、道、の、辨、説、を、下、卷、に、加、へ、注、し、
ら、ハ、あ、く、に、云、を、も、は、る、は、き、を、す、て、も、
ハ、横、行、の、次、第、の、異、あ、る、を、上、に、舉、げ、る、真、備、公、の、
て、ハ、か、の、天、文、本、に、和、名、抄、を、書、入、る、一、本、を、字、切、
與、切



反、同、音、取、下、字、又、一、行、之、中、切、取、下、切、字、と、
為、正、字、輕、重、清、濁、依、上、字、平、上、去、入、依、下、字、と、
摩、阿、可、左、多、那、波、和、夜、の、次、第、を、記、せ、
朝鮮の吏道を書し音圖の横行は、
異、形、ハ、因、よ、上、に、注、せ、る、が、お、と、し、
む、中、世、豎、五、音、の、位、置、横、十、行、の、次、第、に、も、亦、異、形、の、説、
が、出、來、き、る、事、も、あ、り、と、る、が、遂、に、今、に、お、と、く、正、し、
定、ま、り、と、る、もの、が、あ、り、と、る、が、遂、に、今、に、お、と、く、正、し、
た、と、る、を、唐、國、の、例、に、倣、ひ、
字、林、廣、記、あ、ど、に、見、え、と、る、撫、琴、手、法、の、譜、の、字、の、畫、を、
省、き、て、作、る、種、々、の、中、に、泛、を、ノ、消、を、ム、綽、を、ト、急、を、ク、
吟、を、テ、掃、を、ヲ、散、を、サ、按、を、ウ、
吟、を、テ、掃、を、ヲ、散、を、サ、按、を、ウ、
吟、を、テ、掃、を、ヲ、散、を、サ、按、を、ウ、
吟、を、テ、掃、を、ヲ、散、を、サ、按、を、ウ、

○假字本末下卷

。土

かの國に古き例あるはし。片假字のいとはよく似ざる
 をおもふはし。古より傳ちれる樂家の譜も然る體
のあ又此方より片假字出来たる後のも此をいへる
 べからず。古書どもの中より其書の趣よりりて摩魔
 どを。廣。歷。雁。あ。ど。を。尸。密。を。ウ。私。を。△。義。を。乙。音。を。上。
 訓。を。川。反。を。へ。お。と。又。行。從。を。イ。位。を。イ。権。を。才。歳。を。戈。
 形。ど。作。る。類。の。や。多。く。又。佛。書。の。菩。薩。を。サ。サ。縁。覺。を。ヨ。
 ヨ。瑠。璃。を。玉。玉。莊。嚴。を。サ。ム。聲。閔。を。メ。メ。と。作。る。類。の。書
 體。も。又。多。か。り。か。く。る。書。さ。ま。今。も。形。か。あ。ま。あ。る。れ。の
用。ふ。ふ。人。も。あ。る。形。り 故。ら。片。假。字。製。れ。る。意。お。相。似。き。る。は。さ。お。も。ふ。は。し。

かくて其片假字は簡便なるよりりて音韻の學ハ
 らぬ。惣て漢籍の讀むは目標も用ゐるが漸
 にはあねく世に廣まりて字音におきてるをを
 れ。うちかたぶある處々を讀む人の心々も字旁
 に注し著け。又よるのの事をも書記はあらはしと
 するが。あはしく行をききつひよ今のおとくも
 亦ける形は。さてその字旁におのせ事ハ。漢文
 の書籍どもは今も遺り傳ちるを見て知るはし。類
符。宣。抄。の。事。を。示。さ。る。け。太。政。官。符。の。文。中。に。咳。嗽。夫。治。聚
或。嘔。逆。麻。と。訓。注。あり。その。か。み。片。り。あ。又。古。事。記。日
の。普。く。世。に。行。ち。れ。ざ。り。け。せ。證。と。は。べ。し。

假字本下巻

五

本書紀那どの訓。印本ある古寫本も片假字もて
とりくく注せるが中よを以てはやくより注傳へ
きり々むとおもたるも何れ心とゞ然て見るべし。
かくてまゝ古人が漢文よむ。近世とを別めて一字
が讀さばをもみどた大事として。互に當否を論ひ
さざし。何する習俗ありけむ。師とある人の讀さば
を秘して。字中或を字旁にどふ位を定免置て。朱點を
施して。弟子に教へ讀し免ある事あり。さく其朱點の
位が處る。片假字もて訓さまを注せる圖を作り置て。
弟子も授くる事としけり。おをを點圖と稱ふ。俗

乎古止點圖といふおきなり。乎古止と稱ふ由。又其中
の四聲音訓切點懸點反點漢吳音訓引合れどを示し
圖もあり。故師とある人の家々みて點圖異ふして。他
門の人見て容易く知るおとを得ざりしなり。其點圖
りけるがあるを彼此寫せるもの。あさねど其を煩を
り其を一ニ寫して下よ出すべし。さねど其を煩を
しく。かみを見せむ。死らざあむ。其點圖のみ隨ひ
てあるはくも何らば。又さる師をたのおぼして書讀
むもの。新よ作るはくも何らぬ。さかたむ。心々よ
讀とりて。上に以てするおきく字旁に片假字もて。其よ
みさまを注し添ふる。このおのりから漸よ廣まり

也。熟^{ナレ}来ぬる形る^シ。又よろ^シの事を^モ。意言^{ココロゴト}を盡
して滞る^ル。あ^と形^ク。た^やす^く書記す^ル。あ^とく^もを^あね^る
形る^シ。さ^らだ^と祝詞宣命^ノが^も。今^も形^ル。布古^ノの^例。形^ル
せる^中。斯^マ方^ノの^言も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
け^ま。バ^{。あ}。形^ル。布古^ノの^言も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
る^形。り^{。○}。朝鮮^ノの^言も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
さ^ら。片^ノ假^字も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
る^其。國^ノの^言も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
注^ス。さ^ら。あ^と。片^ノ假^字も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
文^ヲ。彼^ノ國^ノの^言も^て。記^ス。さ^むる^も。片^ノ假^字も^て。書^ク。つ^き。形^ル
差^シ。錯^キ。り^{。け}る^{。を}。世^ノ宗^ト呼^ブ。王^ガ時^ノ皇^朝の^應。永^ノの^末
形^ル。頃^ノ。當^リ。正^シ。て^{。改}作^ス。る^{。を}。神^代字^ナり^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
を^{。写}。傳^ス。と^{。る}。今^{。形}。世^{。に}。遺^{。す}。る^{。を}。神^代字^ナり^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
る^{。と}。い^{。と}。謾^{。説}。あ^{。る}。上^{。に}。神^代字^ナり^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
圖^{。と}。い^{。と}。謾^{。説}。あ^{。る}。上^{。に}。神^代字^ナり^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
元^{。五}年^{。に}。製^{。ら}。れ^{。り}。又^{。漢}國^{。の}。元^{。の}。形^{。ル}。事^{。を}。立^{。御}。史^{。臺}。及^{。諸}
道^{。提}。刑^{。按}。察^{。司}。行^{。新}。製^{。蒙}。古^{。字}。更^{。号}。僧^{。ハ}。合^{。思}。馬^{。為}。帝^{。師}

築^堡鹿^門山^立諸^路蒙^古字^學と^其世^ノ史^ノ。近^キ
頃^ノ。清^ノ。太^祖。を^{。以}。蒙^古。字^ノ。集^{。為}。國^ノ。語^ノ。創^{。立}。滿^洲。文^ノ。頒^{。行}。國^ノ。中^ノ
滿^洲。文^ノ。傳^{。布}。自^{。此}。始^{。と}。清^ノ。三^朝。事^ノ。畧^{。を}。見^{。え}。る^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
皇^國。の^{。假}。字^{。ハ}。公^{。家}。に^{。て}。漸^{。と}。行^{。き}。と^{。形}。る^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
皇^國。の^{。假}。字^{。ハ}。公^{。家}。に^{。て}。漸^{。と}。行^{。き}。と^{。形}。る^{。と}。其^ノ。史^ノ。道^ノ
と^{。あ}。ら^{。び}。ね^{。ら}。ら^{。う}。に^{。ね}。も^{。ひ}。や^{。り}。て^{。知}。ら^{。る}。と^{。形}。り^{。但}
一^{。片}假^{。字}。よ^{。り}。も^{。前}。に^{。歌}。形^{。を}。書^{。み}。漢^{。字}。形^{。假}。字^{。を}
草^{。體}。も^{。書}。き。其^{。を}。あ^{。と}。走^{。り}。書^{。き}。に^{。あ}。お^{。や}。ら^{。ま}。か^{。き}
て。杞^ノ。の^{。一}。體^{。を}。あ^{。と}。く^{。も}。形^{。る}。と^{。形}。り^{。け}。む^{。を}。空^{。に}
海^{。の}。形^{。を}。製^{。れ}。る^{。い}。ろ^{。ハ}。假^{。字}。れ^{。世}。に^{。行}。く^{。と}。い^{。ろ}。を^{。せ}。て。
も^{。と}。よ^{。り}。書^{。來}。れ^{。る}。假^{。字}。の^{。草}。體^{。を}。も^{。あ}。ら^{。し}。と^{。形}。あ^{。や}
り^{。よ}。書^{。交}。り^{。る}。事^{。と}。形^{。り}。と^{。る}。もの^{。形}。る^{。と}。其^{。を}。上^{。卷}

○假字本末下卷

。由

ろよまの形の手習いせざるをさし出し云々とあるを
もてねもひやる法しさて後よ草假字を書習ふはト
免ふ難波津淺香山をかくまこと洞物語國讓卷に此事
を源氏物語より取れどフトコデ男手たねちがきよあぢと同
じりドをさまぶくまか哥とあけり。歌云々真假字を
假字を別ある字を女手ふと。歌云々草はト免ふ男
か哥て書る由なり。女手ふと。假字なり。はト免ふ男
も何らば女もあらば真假字を行草形どよさし
つたふかごあ。歌云何しで歌云々草と以て大きに
手書なりかきと一卷よした里同藏開卷よ。からね志きしを中
よりおしをりて。大ねさうしに作りて。あ川さ三寸を
このりよて。一よを例の女手手。二くごりにむとあごよ

かき。一よをさう。真假字を草よなりくごりねをしごと。一よを
あごかんなひと川をあしで。お川例の手を上よ例の
女手手と
あるをよあさせあふ。と云えくするを。歌の字をさまざ
まに書て。もてをやせるさまね。又狭衣物語此物語
紫式
部が女大貳三位作りと河海抄よと云く。以川さ
もも源氏物語より取ちよ書るものと見ゆ。大將十
八歳のあろ五月四日内よりあうてあふ道ふて半部
よ集り居る女どもの中より。軒の菖蒲を一すぢ引
ねとして。歌かきてあごせてお。よあくろとね御隨身
くまするを見ゆるとあろ。よあくろとね御隨身
みよ。其日くろよ硯もと免て奉りたるして。きくろが
みよ。かごあんあふと。見も日くろてをねよけるああね
しねべて軒のあや免のむましねと進むよお日さ

おめらせんといちせめひて。わらわの入らんところ
きりり見よとのこまへむ。半部たりくわけりり
て。人々あま見え侍りつと申せぬ。何人あらん見知
り。さうり流るるやとむかりハねほせせ。かやうのうち
つけぬさうりねどを。わざと御心もいらぬ。とまへ
り。さう次の文ふ。又昨日を所々に御ふみあきぬふ。い
ろいろ紙の。色をさへねどのえあらぬ。あまことり
ちらしてまへまやうにおりすりゆくかきぬふ。御
手あげぬあどてり。少しりのく心あらん人ねいさづ
らよかへさんと見ゆる。とまへ。此ほりもも手心とよ

く書ぬる趣に記しきるに。志う。片假字もて歌書ぬ
へ流た。それあみ歌もねがうり。女ふみあどた。草假字
もて書くねらひあるを。こまへてを知らぬ女ども
うちつけ懸想をねむ。わざとあくるらねさまをあ
らをして。あとさらにこちへ。片假字もて。返歌
書て流あはしきる趣なり。又同物語も。ねきぬひて
り。手まをさびねやうに。あまかあま。かゆこれねあるを
あるおもあらぬ身を人のひとく。やおもひあはらむ。
こねも情なり。風情アリサマを。又うたかうねる御扇のある
書つけ。そのかえ片假字を用ひきり。さぬねもひや
て云々。

○假字本末下巻

もこの話も、篁朝臣の文才を称へざる作り物語あら
むも知らぬといひ、れどもふるきものなり。あれむ
ちあみよ書そへつ。さて又古書に地を漢文さまの
とく、に書く種々、おとく、片假字にて、小字に書
き、命書の例、おとく、片假字の中、も、真、假、字、も、
も、せ、る、を、行、草、も、又、草、假、字、の、ご、と、く、も、書、き、お
き、或、れ、其、片、假、字、を、交、へ、き、る、も、あ、る、り、永、正、十、四、年
中、御、門、宣、胤、卿、記、し、置、き、る、書、翰、案、よ、小、朝、拜、涉
記、令、一、見、假、名、此、涉、沙、記、後、勘、尤、可、然、作、次、日、次、弟、之
傍、二、泰、仕、之、交、名、付、作、ト、記、ト、ハ、可、有、差、異、作、是、ハ、涉、記
分、作、又、片、假、名、付、作、ト、記、ト、ハ、可、有、差、異、作、是、ハ、涉、記
= 書、作、ハ、上、へ、返、作、字、ト、下、= 書、作、分、ハ、不、宜、作、ト、ナ、ト、大
門、ヲ、め、此、作、涉、沙、分、出、多、名、門、ヲ、此、分、不、見、作、出、ト、モ、カ
名、門、ヲ、向、上、首、ノ、人、= 如、此、作、可、然、作、涉、状、ナ、ト、= モ、カ
十、= 申、= 近、ノ、字、書、作、不、可、説、作、下、署、十、ト、古、人、ハ、高、名、= 不、書
作、从、事、次、中、作、不、可、説、作、下、署、十、ト、古、人、ハ、高、名、= 不、書
と、も、見、え、り、り、さ、て、今、の、俗、に、書、さ、お、の、あ、お、り、り、あ
を、右、旁、よ、小、字、に、書、く、も、古、の、書、さ、お、の、あ、お、り、り、あ

今昔物語集を寫傳す。今世に有る本どもを尋常
のおとく漢字片假字とも小書行ぬきり。印本を草假
字よさへ改
り、其ほり予が見る書どもに、宇治拾遺物語、十訓抄、
著聞集、袋草紙、奥義抄、古今集注、袖中抄、萬葉集注釋、古
事談、續古事談、又保元平治物語、源平盛衰記、平家物
語、太平記、かど、古本も、ま、か、片假字も、て、書、り、り、多、り、
り、ぬ、片、假、字、さ、く、件、の、本、ど、も、を、草、假、字、本、よ、比、校、す、る、よ、
中、よ、ま、片、假、字、か、口、を、コ、と、見、誤、り、て、お、こ、あ、ど、作、き、ノ、
を、フ、と、見、お、り、て、ふ、ぬ、あ、ど、誤、り、る、類、あり、又、然、寫、誤、れ、
る、う、へ、を、又、見、誤、り、て、寫、さ、る、類、あり、又、然、寫、誤、れ、
よ、く、讀、見、む、お、心、得、お、く、誤、り、る、類、あり、又、草、假、字、ま、
を、片、假、字、よ、書、換、へ、き、る、書、の、誤、も、准、へ、知、る、法、し、ま、
近、あ、ろ、加、納、諸、平、が、得、て、藏、る、後、撰、集、古、筆、本、よ、片、假

○假字本末下巻

○九

字書なるを見せり。歌集は免づらし。そきたをやり
よ書あしする手れすぢ。みと見もたよをたれど。
目なきがゆほどを。うち見をたかふあるとある
どころありて。いさくわげらはしあり。此歌ひと
寫して下よ出はゆ。或人云。歌集まよ伊勢源氏の物
語をも。片假字よて書る古筆のいさくわげ。残れる
を見せり。事ゆ。さてあし。片假字の字體も。上よ舉せり
りといふ。真備公の製ふ。空海は増補せよを合せ書る四十七
字。舊モトたれべての體サマあるはき。今世よ普く用。其を上
よ論へるぶごとく。たかかうへふ。古くかたよる書籍
ども。いづれふも用ひせり。をもても知るはし。然るに

其中よ異體あるを。交モトまるを。舊モトた字體を用ひ熟ナる
るおふく。後々更に製ツクるものなるはし。其を草
も。さぬくの體あると同例よて。自然オラのいさくわげ
り。漢字の古よりやうく。轉マる変れるおもねもひ
合は。但し上よ云へる。今昔物語集をば。免。事を記せ
は。書どもに。異體を書きるといふ。少く。漢文は訓ヨミ法ザマ字
書は訓あどに。さまづ。異體の多かるを。もはら博
士ぎちたる人々。心々よ製り用ひせり。よふぞある
はき。かくて近むるより異體を用るあとの漸ヤ小廢
て。近世ふねよびて。多きをいさくわげ。事なく。おたけ
ら舊た字體よのみきちかへ。して書く事とたよるを。

おだらはいからでいをよき事なり。漢籍の訓點も異體をむをさく用らるざりゆと見ゆる。其後の人もそれと倣ひてものせらるが例とありきる。や何むらさ然ど又異體も見知りおく。後きこざあれど。年おろ古書ども其の中み見ゆりきるを。舊體の字其下み舉げたるこそまらの本字を推量し注しつけつ。但しその片假字の古書どももよつね多かるも又おれい見えたるも又きく二見ゆりたるもあり。已と一おろ書とく免置ゆるも。今を記す。おろ書とく免置ゆるも。今を記す。いれうとせむ。又此お載するほりも。異體あるを見をり。おぼも。ぬも。とより多かる。後きを。今を記す。はやく書とく免置ゆるをとり。ゆりめて記せるなり。

片假字異體證文切字例

但此の書どもに見えたる。悉書名を標し。堪た。二名を載て省くるが多し。

中 江 延 舟 菅 百 類 真 親 令

尚書古本訓點
 中家秘本
 江家次第古本
 三部訓點
 延喜式古本
 二部訓點
 船橋環翠軒秀賢
 神代紀抄
 菅家點圖
 百寮訓要
 古寫本
 類聚名義抄
 本字訓義抄
 真言密書訓
 長覽
 親鸞書
 令義解古本
 訓點

好 延京 最 无 將 類 第 新 神 尊

藤貞幹好古日録
 據古書所載
 延喜式京極本
 訓點
 最勝王聊簡畧集
 无量壽經
 天片假字
 蓋門記
 將門記
 類聚名義抄
 古第譜
 新韻集字訓
 神樂歌古本
 尊意贈僧正傳古本
 宣命用假

○假字本末下卷

○世一

語 秋 日 醫 寬 天 長 後 卜 古

古語拾遺古本
訓點日本紀訓點
日本書紀訓古本
印本
醫心方古本訓點
寬平法皇御點圖
天治寫本万葉集
歌假字本蒙求目錄
長兼寫本假字目錄
後深草院御記點圖
練類御書始
卜部家點圖
頭昭古今集注

仁 神 万 醫 色 孝 浪 古 琉 伊

仁智要畧古本
永仁寫本神代紀
訓點
万葉集注秋
丹波雅忠著
醫畧抄訓點
色葉字類抄
字訓
同本中野朱校大
江孝言本假字
浪華帖所收古筆
古事記真福寺藏零
本又同書應永殘本
琉球往來訓點
懷長年來
伊勢貞丈主隨筆
據古書所抄

興 今 曆 見 金 催 字 朗 了 个

興福寺延年舞詞
今昔物語集
延曆寺宝幢院點圖
日本見在書目錄
古本訓點
金澤文庫本群書治
要訓點
催馬樂案譜
字訓古本
朗詠要抄
了
个
阿之
偏之
伊之
偏之
江安同省上
伊伊省
尹尹
江伊省
省草

後 園 高 道 平 密 拾 醞

後撰集片假字書
古本
園城寺西墓點圖
高野山中院點圖
道風朝臣書佛經
訓點
平家物語真字本
中野用鞍
僧法密
拾芥抄
訓點
醞
醞
寺藏神代紀
訓點
同草假

○假字本末下卷

○廿三

口(口) レ(レ) ル(ル) リ(リ) ラ(ラ) ヨ(ヨ) エ(エ) ヤ(ヤ) モ(モ) メ(メ)

省呂省礼省流假利省良省與省勇草也省毛用女
 之之之字之之之之之之之之之之之之
 又(又) 此(此) 儿(儿) 同(同) 旁(旁) う(う) 与(与) 上(上) 字(字) 全(全) 毛(毛) 省(省)
 全(全) 延(延) 体(体) 祭(祭) 同(同) 寛(寛) 草(草) 道(道) 全(全) 最(最) 上(上) 同(同) 草(草) 同(同) 古(古) 人(人)
 草(草) 同(同) 草(草) 礼(礼) 上(上) 語(語) 利(利) う(う) 体(体) 管(管) 上(上) 体(体) 上(上) 注(注) 上(上) 將(將)
 変(変) 上(上) 假(假) 之(之) 第(第) 体(体) 第(第) 將(將) 夕(夕) 二(二) 也(也) 省(省) 万(万) 同(同)
 六(六) 字(字) 草(草) 儿(儿) 全(全) う(う) 草(草) 江(江) 同(同) 將(將) 上(上) 將(將) 之(之) 又(又)
 全(全) 類(類) 同(同) 全(全) 上(上) 金(金) り(り) 同(同) 金(金) 体(体) 同(同) 上(上) 中(中) 同(同) 之(之) 変(変) 中(中)
 体(体) 六(六) し(し) 同(同) 上(上) 中(中) 上(上) 共(共) 上(上) 二(二) 草(草) 後(後) 体(体) 同(同) 上(上)
 之(之) し(し) 変(変) 同(同) ら(ら) 与(与) 二(二) 体(体) 同(同) 上(上) 又(又)
 し(し) 変(変) 神(神) 与(与) 類(類) 草(草) 後(後) 上(上) 又(又)
 金(金) 類(類) 同(同) 將(將) 草(草) 良(良) 之(之) 中(中) 変(変) 同(同) 上(上) 七(七) 草(草) 秀(秀)
 同(同) 上(上) 医(医) 假(假) 之(之) 省(省) 古(古) 平(平) 功(功) 全(全) 同(同) 上(上) 上(上)
 し(し) 同(同) 草(草) 草(草) 同(同) 草(草) 由(由) 之(之)
 同(同) 上(上) 朗(朗) し(し) 上(上) 朗(朗) 同(同)

ヲ(ヲ) 工(工) 井(井) ワ(ワ)

草和
 假之
 字省
 同變
 同變
 字同
 變同
 上同
 道同
 變同
 上同
 天(天) 方(方) 同(同) 上(上) 共(共)
 草(草) 乎(乎) 慧(慧) 慧(慧) 体(体) 井(井) 中(中) 草(草)
 變(變) 之(之) 之(之) 之(之) 用(用) 之(之) 用(用) 草(草)
 全(全) 省(省) 俗(俗) 訓(訓) 全(全) 用(用) 假(假) 字(字)
 斗(斗) 乎(乎) 丑(丑) 牛(牛) 之(之) 延(延) 字(字) 又(又)
 同(同) 第(第) 全(全) 第(第) 上(上) 蒙(蒙) 之(之) 省(省) 井(井) 未(未) 變(變) 同(同)
 上(上) 尊(尊) 全(全) 第(第) 同(同) 同(同) 省(省) 井(井) 未(未) 變(變) 同(同)
 尼(尼) 中(中) 字(字) 已(已) 丰(丰) 和(和) 類(類) 上(上)
 省(省) 尾(尾) 草(草) 第(第) 類(類) 最(最) 上(上) 伊(伊) 之(之) 中(中) 口(口)
 体(体) 同(同) 同(同) 類(類) 同(同) 偏(偏) 日(日) 上(上) 道(道)
 う(う) 上(上) 蒙(蒙) 牛(牛) 医(医) 變(變) 同(同)
 う(う) 已(已) 之(之) 古(古) 日(日) 口(口)
 草(草) 今(今) 同(同) 字(字) 省(省) 注(注) 之(之) 將(將) 口(口)
 假(假) 將(將) 上(上) 蒙(蒙) 章(章) 之(之) 医(医) 口(口)
 字(字) 同(同) 上(上) 之(之) 延(延) 全(全) 延(延) 草(草) 古(古) 口(口)
 同(同) 上(上) 之(之) 省(省) 惠(惠) 全(全) 草(草) 為(為) 之(之) 朗(朗) 王(王) 蒙(蒙)
 う(う) 假(假) 朗(朗) 同(同) 上(上) 草(草)

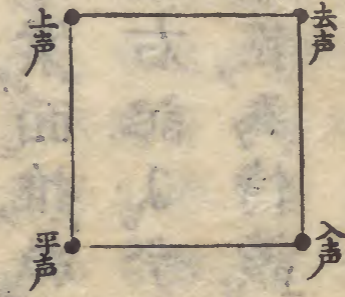
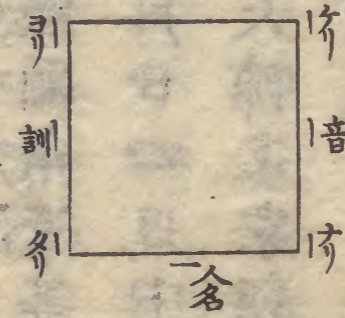
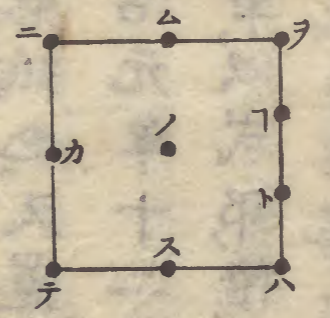
右子舉きる片假字の中に同字を草體にぶとくた
 をやうに書き又たのけうら筆勢よて變れるも何
 ぶかり右にほあふもいさくう書ざまに異なるを
 那布多きを已に流らはしうを洩せるも多し准へ

○假字本末下卷

○其

書付之無表紙。

おと東宮御書始部類記に曰。後深草院御記。永仁二年六月廿五日。此日皇太子御讀書始也。云々。點圖角筆等。此兩物。學士資宗所用調進也。點圖白色紙書之。料紙一張也。一枚。左方點圖三置之。草紙寸法高弘各五寸。角筆長寸六。



此寸分各方一寸也

又和漢朗詠集の點施しとる古寫本の奥よりその點圖を載せぬりとて。或人其寫傳へせり。

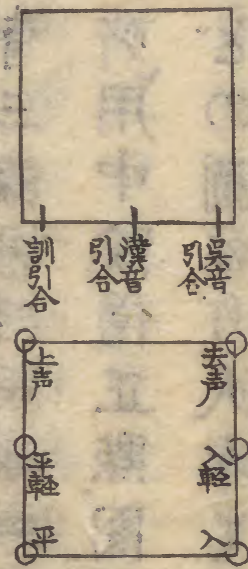


とあり。此外點圖は。大學二曹。菅家江家。紀傳明經博士。清家中家。おとト家の點圖。まこと延曆寺所用寶幢院點。東大寺三論宗所用點。興福寺所用唯識論喜多院點。高野山所用中院僧正點。園城寺所用西墓點。太秦廣隆寺點。形どの圖あり。大率を相似て各異あり。古書ども異なる。あつ見えり。おと

明經家點圖中

紀傳家點圖中

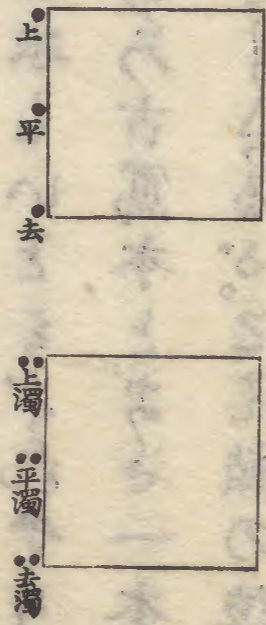
興福寺點圖中



かくるさまあるを、字を引合て、字讀みざま。又四聲の
 どの點圖あり。但し四聲の點位は、漢國の
 假字の點を施して音を示しある例
 古書に假字に朱點を施して、音の上下を示しあるが
 あり。おの其音は上、下を示せる事、字書に見えたるを
 ト免む。古事記に、神名あどの中字の下に、上去等の

字を小く注し添るとあるあり。然るハ言の連きさ
 おもて音を誤るべきところ、漢國にてさざする四
 聲の目を假りて、おも音の上下を示せるものあり。凡
 て漢語の音を、平上去入の四別あり。斯方の語も
 彼に准へて云へむ。平上去の三聲あり。平を上らば下
 らば平ある聲。上を上の聲。去を下の聲あり。古事記に
 平聲を注さざば、たの注さるべき語の無
 かりあるは、古の語を嚴重にして、その音の上下、
 をさへに謹免る事然りき。かくて古書ども、中字假
 字の點を施せざるを、おもらそ音の上、下

を嚴重に謹める所為^{ワザ}にて以て之を免^メてとす。今これの
まが見ざる書どもの中ふと云々。類聚名義抄は古
本の^{仁治二年}に寫^る本あり。字訓の片假字は朱もて
音點を施^しざるが多し。卷首に云。片假字有朱點者皆
有證據。各有師說。無點者。雜々書中隨見得^テ注^シ付^ル之所不
知追々可決^ス之^トと云ひて。たやくより音を重きものと
^{れもひや}音點施^したる^と然らぬが有り。さて其音點
を檢^ミるふ。上平去は位を定て。訓を注せる片假字の字
おとふ。左旁に朱點を施^サしきり。今其點圖を作^リてお
こふ所ぐ。



かくおとす。類聚和名抄の古寫は殘缺本の和
名は真假字。醫心方の古寫本^{第三}に載せる藥物は和
名の真假字。ともふ朱は音點有り。その點例は名義
抄と相同し。共^ニその音點は隨^ヒて其言を
^唱試^ムむる^よ。今の京語のおとす。又字鏡集
は與書に。寛元三年四月二日。小河法印乘澄示^シ云。朱點
東宮切韻。墨點。唐玉篇也。云々。寛元三年五月十日。尚成
云。墨點。不審字也。朱點。詳^ニ之^ヲ無^ニ不審字也。と所れむ。こを

○假字本末下卷

。世

も名義抄のごとく。字訓の片假字は左旁に點施した
りしものなり。然るにねのまが見ざる本ども。いつま
も數度轉寫を経せりとねぼしくて。寫誤多く點をむ
寫漏せり。おましく左旁に墨もて點さしとるもゆ
れど。つとみごまてあらぬ位トヨのものきれむ。據る
よくらげ。くちをうたひざり。又色葉字類抄に載さ
る神名をりく。墨の圈點見えとまど。こはもいつ
はの本もいとまざれきり。こまもと延喜神名式の古
本は據りとるるやあらむ。
近ある古寫本とおと一本得ざる。一本にを朱みて
點さしとるが。こま點の位いとみざりあらげ。普

通は本とをこまなり。又古事記。日本書紀の古寫本は
中もをりく。真假字書は歌文ウタコト。おと訓は片假字
も。朱點さしとるるところあり。ねほあをよろく見
ゆ。點例上よ云するよ同し。書紀の印本よ。まれに黒圈
下よ舉るもあま同し。 顯昭は古今
集注。袖中抄の古寫本も。とあるく。朱點あり。こま
らむ寫誤多からげ見ゆ。さてその古今集の序注は跋
よ。總載管見之所勸。愁備竹園之高覽云々。壽永二年云
云。次よ文治二年正月廿四日。依重仰差聲加點了。建久
二年九月五日。重下賜加點差聲訖。同歌注の卷々は跋

よ文治元年云々注進之。重賜^ヲ差聲^ヲとあり。顯昭此注を
某親王よ奉り。重て其仰よよまて點施して奉り。あ
其親王重て點施して賜ひし由あり。同人の散木集
壽永二年十月七日奉^リ梁門^ヲ教命^ヲ注進之。重^テ下^ニ給^フ差聲^ヲ了^ス。
顯昭とあり。但し見在る本ども其差聲の點を寫脱せ
り。そ然加る所を差聲加點といひて。語^{コト}音^ネの上下を
嚴重^{オゴソカ}しりしと知りしと知^ル所^ヲ誤^シし。書のさまよひて。古
を多く然ものしをりけず。後世よあまて。其點をな
しと誤らぬる事のごとくたもひて。寫しとらざりつ
る本の。今も多きある誤^リ。件のほり此書どもふも。其
點あるを見をりしとど。今もす^レ誤^リしとら。又さたふ細

川、幽齋主^{コト}誤^リし^レのら書^クま^ルる。古今集の抄物^{コト}誤^リ。歌詞
中^ニ朱點^ヲ施^スし^テ多^ク分^ク体^ヲを見^セり^た。さ^レま^レぬ^レ近^クむ
り^しも^も。語^{コト}の音^ネを嚴重^{オゴソカ}し^テ謹^ムむ事^ヲ。さ^レま^レぬ^レさ
り^しる^レあり^し。か^クて近^キ世^{ヨリ}古^ク學^ブお^こり^て。彼
此の大人^ヲを^も。言^ハの道^ヲ々^々を^も。稱^シ證^シして。た^らぬ^レか
は^ること^ヲ。あ^らき^らら^ぬふ^{あり}ぬ^るを。い^はす^もく^先
て^も。た^ふと^知る^あた^せく^た。い^まご^音の上下^ノ事^ヲ
を^バ。古^ノ人^ノのごとく嚴重^{オゴソカ}し^テ意^ヲ得^テ。さ^らに^も。人^ヲき^き
え^ぬ。そ^くち^をし^きや。い^はら^ぬ。其^をち^をも^正し^明ら
先^て。世^よも^ろめ^む人^も。た^らぬ^レ。さ^らに^も。片^ノ假^字の異^體

をむ古書讀を免みのみ心得おきて。ことさらるまの
み書くあとをせむ。舊モトのおくみて傳ちくる今の世は
體サマを正しく鮮明アヤカふ。目やすく書べきこと。伊勢
貞丈主の隨筆は書ふ。真字と片假字とを交へ書くと
た。口を口舌あどの口よまぎれ。二を二三あどの二よ
まぎれ。かを勇力あどの力よまぎれ。夕を朝あどま
夕よまぎれ。子を父子あど十二支の子にまぎる。かく
混ト誤りやすた字を。文の害とある事あり。心を流く
流きあとぬり。と心を流くるを。おこと不然ることあ
り。

追考

かく記しおける後。天平寶字五年に書きたる。最勝王
聊簡畧集と題せし佛書。片假字を用ひて點を施し
きたるを見たり。此書吾友佐藤方定が親しき人。或古寺
より得たりと云々。秘藏ヒモテるを。おのまゝ見せむと
て。暫シとて借もて来て見せしむるあり。古代の厚紙
を書て一卷とせり。ゆゑに舊が蠹カミて。卷舒マクハルに堪へぬ。面
りりありきたるを。薄紙ウスりて。両面より張繕シひて。透スし
て見るは。さして其卷首に件の題名ありて。序に我曰
本八嶋國志貴嶋宮。謚天國押撥廣庭天皇御宇七年戊
午十二月廿二日。自百齊國主明王奉慶佛像經教。大臣

蘓我稻目宿祢始建佛法。起尔戊午。今至寶字五年辛丑。所經年數二百廿二年。下と書て。卷軸に天平寶字五年と細字に識せり。序に今至寶字五年辛丑云々と云へ者。其自筆形る。流し。さて同年に書む。す。此書漢文に書れど。拙きかきざま多し。字体も拙けきど。さ。は。が。ふ。古。様。る。手。の。ま。ぢ。當。時。の。書。れ。る。流。き。お。と。疑。わ。く。覺。ゆ。さ。く。其。本。文。真。行。の。體。を。交。へ。書。て。字。旁。に。と。あ。ろ。く。片。假。字。に。訓。を。注。し。飛。仁。乎。波。を。施。し。あ。く。反。點。を。附。を。る。形。ど。お。ほ。り。今。の。世。に。體。に。異。あ。ら。ん。連。讀。の。字。間。に。一。を。附。を。る。と。あ。ろ。も。あ。さ。く。其。訓。點。反。點。表。面。を。多。く。朱。を。用。む。裏。面。を。本。文。を。書。わ。ら。う。天。仁。乎。波。を。書。き。り。其。を。本。文。の。字。列。お。く。墨。

色筆勢もて知られり。山科 此事を聞いて云。或法
を。多。く。も。草。體。に。形。が。ら。免。て。書。き。り。異。體。ふ。を。只。に。さ。く。あ。け。ら。を。交。へ。書。し。り。あ。く。ン。と。書。べ。き。処。に。な。り。ム。と。書。り。あ。く。に。形。ど。の。ご。と。に。草。畧。片。に。な。ど。の。お。と。き。合。字。に。體。を。あ。ら。ん。但。本。文。に。菩。薩。を。并。あ。ま。よ。よ。ま。て。ね。も。へ。む。天。平。寶。字。の。頃。既。に。片。假。字。を。用。む。し。り。證。わ。り。

